

令和3年度 第1回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会概要

開催日 令和3年5月25日(火)

出席委員 岩動委員長、佐藤副委員長、真壁委員、田中委員、林屋委員

議事 令和2年度区民協働まちづくり事業企画事業の事後評価

【事業報告】

区民協働まちづくり事業に関する要綱(平成14年3月25日市長決裁)第6条第2項第2号の規定に基づき、令和2年度企画事業実施団体より実績報告書の通り報告。

【質疑応答】 [Q: 質問 A: 回答]

・将監沼ふれあい事業

Q: ボランティアメンバーはどのような構成であるか。

A: 仙台市森林アドバイザーに協力いただいている。有償のボランティアであり、非常に低価格で下刈りや伐採作業を実施してもらっている。

Q: 植樹した苗木が普段より多い9本とのことだが、例年は何本植樹しているのか。

A: 5本程度であり、地域の方に植樹していただいている。また、苗木の助成を百年の杜推進課にお願いしている。

・いずみ朝市

Q: 出店数が17店舗とのことだが、そのうち泉区内事業者の出店は何店舗か。

A: 10店舗である。可能な限り泉区内の事業者を利用してもらえるようにしている。

・泉ヶ岳利活用推進事業

Q: 会員団体の高齢化が問題としてあるが、若い世代の団体が参加される兆しや呼びかけは行っているか。

A: 各団体の事情もありなかなか難しい状況ではあるが、若い会員の方が入っていると話を聞いている。

Q: 会報誌である泉ヶ岳通信は何部ほど配布しているのか。

A: 1,500部配布している。配布方法としては区内の各市民センター等への配架や、様々な事業・イベントの来場者へ配っている。

Q: 自然観察会の参加者数を教えて欲しい。また、例年4回の実施に対し、去年は2回の実施とのことだが、参加者数の変動はなかったか。

A: 1回あたりの自然観察参加者は20~30名程度である。また、参加者数の変動はなかった。

・泉中央美化推進事業

Q：花植えに関しては維持管理が非常に大変だと思う。近くの企業やお店にお願いするのはどうか。

A：そういった提案も実行委員会にて出ている。実際に企業の方に花植えからの参加をお願いすることで、地域への美化意識が増え、維持管理を積極的にやってもらえるようになるのではと考えている。

・いずみのふるさと学事業

Q：デジタルブックはいくらで販売しているのか、また、どの程度売れているのか。

A：泉区まちづくり推進課にて 800 円で販売している。また、今のところ冊子の方の売れ行きがいい。

・泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業

Q：泉ヶ岳利活用推進市民会議等の泉ヶ岳と関係する他団体との連携はあるか。

A：実際に実行委員になって頂いており、連携を図っている。また、今回作成した Web サイトの内容についても、実行委員会を複数回開催し、委員の意見を大きく反映させたものとなっている。

Q：Web サイト内クイズの景品が決算に計上されていないように見えるが、協賛や寄付を頂いたということか。

A：景品の経費は Web サイト制作費に含まれている。

Q：Web サイトの公開期間が 3 か月と短期間なのはなぜか。また、もし今年度も Web サイトを作成する場合、前年作成したものをベースとして利用することができるのか。

A：予算の都合が大きいところであるとともに、例年と違い、Web サイトを立ち上げて本事業を紹介するという新たな試みであったため、どの程度の効果があるのかを検証する試験的な意味合もあり、短期間での公開となった。また、前年作成した Web サイトを利用することができるので、今年度よりも 20～30 万円ほど製作費を軽減することができる。

・区民意識普及啓発事業

Q：区民意識パネルの設置について具体的に教えてほしい。

A：正式にはまちづくり推進協議会の総務広報委員会にて設置方法を決定することにはなるが、各町内会等の設置予定先への連絡やアンケート調査などを実施し、配布する予定である。また、本パネルは経年劣化するものなので、まちづくり推進協議会で在庫として保管しておく予定でもある。

・青少年健全育成事業

Q：近年の傾向として、若い人達がインターネットを活用しながら自分の主張をしているが、本事業でも SNS 等を活用することはできないだろうか。

A：少年の主張泉区大会に関しては学校から作文を募集して各校の代表者を選出し発表するとの形態をとっているのですが、現状 SNS の利用は考えていないが、標語コンクールについては SNS を活用しての応募等も考えている。

・地域子育て交流会

Q：動画は外部に委託して作ったものか。

A：本団体の構成員と家庭健康課で作成したものである。

・大学連携地域づくり事業（いずみ絆プロジェクト）

Q：泉6大学まちづくりフェスティバルが、例年と異なり、駅ビルでのパネル展示や動画放映を行ったとのことだが、訪れてくれた方の評判はどうだったか。

A：会場でアンケート調査を行っていた。来場者は、本事業のことを初めて知った方がほとんどで、多くの方に本事業のことを知ってもらうことができた。また、感想については、普段なかなか知れない本活動について知れてよかったなど、好評的な意見が多かった。

Q：今回作成した動画は駅ビルでの展示以外でも利用しているのか。

A：現時点ではまだ利用できていないが、動画自体は非常に完成度が高いものであるため、積極的に使っていきたいと考えている。例年、まちづくり推進課主催の研修会などでパネル展示をしていたが、それと合わせて動画の放映も検討している。

・大学連携地域づくり事業（課題解決）

Q：大学とは具体的にどのように関わっているのか。

A：本事業で行う研修会にて、専門的な知見が必要な際などに、講師として大学の先生をお呼びし講演していただいている。

Q：本事業は何年目の事業か。また、今まで事業を実施してきた中で様々な問題解決ができたと思うが、加茂以外の地区にも活かせるようなことがあると思う。他地区との連携などはあるのか。

A：5年目の事業である。また、まちづくりに関して問題を抱えた地区から相談を受け、本事業の協議会員が協力した事例がある。

・泉中央地区活性化推進事業

Q：宮城県から補助金を頂いたとのことだが、それは昨年度1回だけの補助なのか。また、企画運営委託料内訳として、費用が多くかかったのはどのようなものか。

A：宮城県の担当者に確認したら、今年度は検討中とのこと。また、委託料としてイルミネーションの電飾類のレンタル費用が多くかかったが、本ハロウィンイベントの雰囲気や賑わいを創出するためにはとても重要な要素と考える。

Q：実行委員会メンバーが商業者中心である。コロナ禍で自身の経営が危うい中でも協力的であったのか。

A：本ハロウィンイベントを泉区の1つの大きなイベントとして根差していきたいという思いを皆さんお持ちいただいております、コロナ禍で大変な中、とても積極的にご協力いただいた。